



不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷
<http://www.hyogo-c.ed.jp/yamabiko-bo/>

やまびこ親の会

但馬やまびこの郷では、不登校の子どもを持つ保護者を対象に、今年度も「やまびこ親の会」を実施します。

今年度は、兵庫県スクールカウンセラー・スーパーバイザーの今塩屋登喜子さんにお越しいただき、「不登校児童生徒へのかかわり方」についてお話ししていただく予定です。

緑豊かな但馬やまびこの郷で、今塩屋カウンセラーやスタッフを交えて不登校について考え合ったり、体験活動（製作活動やスポーツ活動等）をしたりして、ゆったりとした1泊2日を過ごしてみませんか。1日（または半日）だけの参加も可能です。いっしょに語り合しましょう！

- ◆期 日 8月29日（土）～30日（日）
- ◆会 場 県立但馬やまびこの郷

昨年度も、県下各地から多くの保護者に参加いただきました。参加された方々の感想の一部をご紹介します。

《参加者の声》

保護者交流会では…

- 同じ境遇のお母さんたちと話ができて、自分も落ち着いたし、みんな一緒がんばっていると元気が出た。いろいろなことを共有できる場って必要だなと思いました。

体験活動では…

- 楽しく話しながら作品が作れ、充実感を味わうことができました。気持ちが落ちつき、優しくなったような気がしました。
- 楽しかった。とにかくリフレッシュできました。前向きになるのは、まず、自分が元気でないといけないと強く思いました。

スーさんのちよつとセミナー

「家庭での子どもへの働きかけ」 連載その3



閉じこもる子どもたち

県立但馬やまびこの郷所長 杉村省吾

不登校は、一般的には、①心身症的時期 ②反抗・暴力の時期 ③怠惰・内閉の時期 ④登校準備の時期 ⑤立ち上がり・再登校の時期という6段階で進行していくとされています。

今回は、第3段階である「怠惰・内閉の時期」について考えてみましょう。

図を見てください。これは、不登校児童生徒の保護者21名の方に「子どもが興味を持っていることは何ですか」という質問に対する回答結果です。

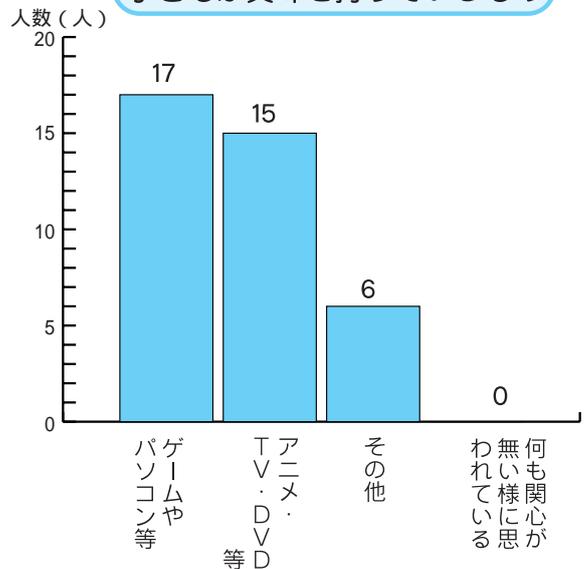
不登校の子どもたちの中には、家でゲーム、アニメ、漫画、CD、DVDにのめり込む子が多く見られます。これは現実からの逃避であり、退行現象ではありますが、さらなる成長のために、一時的に必要な状況でもあります。

したがって、ゲーム、アニメなど、子どもが一時はまっているものを禁止したり取り上げたりしてしまうことは、再登校に対して逆効果となることもあります。要求しないのに強いて与える必要はありませんが、取り上げてしまうと無気力になるか、生きる希望や勇気を失ってしまう恐れがあります。この時期で問題となるのが、無関心、無気力なのです。

不登校の子どもたちは、家にいて何もせずに、何も悩んでいないような様子で過ごしているようですが、内面では学業の遅れと登校していないことへの罪悪感にさいなまれているのです。この不安と罪悪感を忘れさせてくれるのが、ゲームやアニメなのです。

マンガやアニメにはスリル、サスペンス、バイオレンスなどが盛り込まれていて、子どもはこれらのイメージの中で疑似体験をして、ストレス耐性を身に付けていきます。これらのイメージが人を癒し成長させる力を持っているのです。現代社会は子どもから大人になるためのイニシエーション（通過儀礼）を無くしてしまっており、現代人はそれを夢の中で行うか、童話、昔話、アニメ、マンガ、遊戯療法における内的イメージの中で行っているとも考えられます。ジブリ系の「風の谷のナウシカ」「となりのトトロ」「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」「ハウルの動く城」「崖の上のポニョ」、外国の「ナルニア国物語」「ゲド戦記」「ハリーポッター」などが全世界の子どもや大人までも感動させるのは、このようなイメージの治癒力によるものと思われる。

子どもが興味を持っているもの



子どもたちは、これらの仮想現実に関ることによって、生きることの意味、家族とは何か、友情などの人と人の絆とは何か、死ぬばどうなるのか、死なずに生きていくにはどうすればいいのか、弱い者が強くなるにはどうすればいいのか、自分の目標を達成するためにはこつこつ努力して学ぶ目的を達成していくことが必要であること等を学んでいくのです。

しかし、これらの内的世界に没頭するあまり生活が昼夜逆転する様子を見て、保護者の方はご心配だと思います。それを改善する方法として、下記のような方法をお勧めします。

- ① 親子でカウンセリングを受ける。
- ② 料理・洗濯・風呂掃除などの家の手伝いをさせてみる。
- ③ 本人が希望すれば学習塾や家庭教師を勧めてみる。
- ④ 教室には入れなくても、部活動等へ行かせてみる。
- ⑤ ゲームの時間を減らして文芸作品を勧めてみる。



(杉村所長 作)

「怠惰・内閉の時期」は、子どもたちが一見何もしていないように見える時期ですが、実は「心の旅」という内的作業をしているとも言えます。そしてこの「心の旅」という自分探しが終わったら、憑き物が落ちたように、次の再登校準備の段階に入っていく子どもも多いようです。

したがって、ご家庭では、次のような姿勢も大切にしていきたいと思います。

- ◇子どもの目先の行動にとらわれない
- ◇彼らの内的な成長を見守る

但馬やまびこの郷スタッフから見た「怠惰・内閉の時期」 ～ 体験活動を通して ～

やまびこの郷に来る子どもたちの中には、ゲームやインターネット、携帯等に没頭し、昼夜逆転の生活になっている子も多くいます。しかし、当所で活動しながら、ゲームやインターネットのない自然の中で過ごし、直接人とふれ合い、かかわることの楽しさを味わい、体を動かすことで生き生きとした表情を見せ始めます。

昨年度、当所を利用した中学2年の男子は、「みんなと一緒に活動するのは、しんどいことやいやなこともあるけど楽しいこともいっぱいある」と言って、当所の利用を通して、ゲーム漬けだった自分の生活を少しずつ見直していきました。そして、学習、学校、進路という現実と向き合い、現在、再登校を果たしています。

「怠惰・内閉の時期」は一番長い時期であり、その分、保護者の方の不安や焦りが大きくなる時期でしょう。だからこそ当所を利用し、様々な活動や働きかけを通して、子どもたち自身が前向きに生活しよう、この状況を変えようとする意欲を高めることにより、この時期の短縮化を図ることができるのではないかと考えます。



おたより 紹介

但馬やまびこの郷には、入所された児童生徒やその保護者の皆さんからたくさんのお電話やお手紙、ファックスをいただきます。

今回は、当所を利用しながら中学校を卒業した生徒の卒業文集から作文をご紹介します。

私がアリガトウを言いたい人へ

中学三年 女子

お父さん、お母さん、弟へ。ありがとう。辛いとき、乗り越えられたのはみんなのおかげです。あと、愛犬様、アリガトウ。君はあんまり役にたたないようで、けっこう重要なヤツなんだな。おばあちゃんアリガトウ。おばあちゃんの言葉はいつも染みます。

友だち、アリガトウ。元気の出る言葉や笑顔は、いつも私を支えてくれました。修学旅行や文化祭、楽しかったよ。

先生、アリガトウ、ございました。A先生、B先生、C先生。C先生が教えてくれた「スタートライン」は私の大好きな歌になりました。

(中略)

やまびこの郷のスタッフへ、アリガトウ。格好い大人ばかりだった。本当に、子どもみたいに格好いい大人ばかりでした。やまびこで出会った友だち、元気にしてるかな？

本当に、みんなにみんなに、アリガトウを言いたいです。私が十五年で出会った全ての人に書ききれませんが。

最後に、自分に。アリガトウ。これからもヨシク！

やまびこ情報

みんな
おいでよ！

地域やまびこ教室

但馬やまびこの郷がみなさんの街へ出かけ、いろいろな体験活動や交流会を行います。

- 8 / 10(月) 神戸市立神出自然教育園
- 9 / 24(木) 県立但馬やまびこの郷 ~ 25(金)
- 10 / 13(火) 宝塚市立宝塚自然の家
- 10 / 15(木) 県立山の学校 ~ 16(金)
- 11 / 5(木) 県立淡路文化会館

<活動内容>

児童生徒：料理やスポーツ等の体験活動

保護者：交流会

県民交流事業

やまびこフェスタ

【とき】平成21年11月1日(日)
10:30 ~ 16:00

【ところ】県立但馬やまびこの郷

【対象】一般県民・学校関係者

【内容】講演会
「不登校だった僕から君へ」
講師：神戸新聞社勤務
津谷 治英

その他、ゆったり温泉入浴やプラ板作りなどの体験活動、アトラクション(餅つき)などの催しがあります。

皆様、ぜひご参加ください。

